

○ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の「言葉の特徴やきまりに関する指導事項」の構成と指導上の留意点はどのようになっているか。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の「言葉の特徴やきまりに関する事項」は次のような構成になっている。

- 言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項
- 語句・語彙に関する事項
- 単語、文及び文章に関する事項
- 表現の技法に関する事項

「言葉の特徴やきまりに関する事項」を指導する際には、次の点に留意する。

- 1 3領域の指導を通して、各事項を指導すること。
- 2 知識をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要なものについては、特にそれだけを取り上げて学習させることにも配慮すること。
- 3 日常の言語活動を振り返り、言葉の特徴やきまりについて気付かせ、言語生活の向上に役立てることを重視すること。

なお、それぞれの指導事項の具体的な内容や留意点は次の表のとおりである。

各学年の言葉の特徴やきまりに関する事項

※ \_\_\_\_\_部は解説と関連する箇所

指導事項	第1学年	第2学年	第3学年
言葉の働きや特徴・言葉遣いに関する事項	<p>(ア) 音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めること。</p> <p>【解説】                      これまでは、第2、3学年に示されていた事項。移行措置として、平成23年度の第1学年では指導することとされている。                      具体的には、伝達機能を中心とした音声の働き、音節の基本的な構造などへの理解を促すようにする。(アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの音声的特質)</p>	<p>(ア) <u>話し言葉と書き言葉</u>との違い、<u>共通語と方言</u>の果たす役割、<u>敬語</u>の働きなどについて理解すること。</p> <p>【解説】                      実際の生活場面で、話し言葉と書き言葉とを適切に使えるよう指導する。                      「共通語と方言」については、時と場合などに応じて使い分けられるよう指導する。                      敬語については、基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について理解させる必要がある。</p>	<p>(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、<u>敬語</u>を社会生活の中で適切に使うこと。</p> <p>【解説】                      言葉が生活と密接に関連していることを実感させるとともに、実生活に生きる言葉の力を身に付けることの大切さに気付かせる。                      敬語については、社会生活の中で、相手や場面に応じて、適切に使い分けられるよう指導する。</p>

語句・語彙に関する事項	<p>(イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、<u>語感を磨く</u>こと。</p> <p>(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語や文章の中の語彙について関心をもつこと。</p>	<p>(イ) <u>抽象的な概念を表す語句</u>、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p>	<p>(イ) <u>慣用句・四字熟語</u>などに関する知識を広げ、<u>和語・漢語・外来語</u>などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p>
	<p>【解説】</p> <p>「語感を磨く」ために、語句の意味について調べたことを記録させたり、その語句を使った短文を作らせたりすることが有効である。</p>	<p>【解説】</p> <p>「抽象的な概念を表す語句」とは、第1学年で学習した「事象や行為などを表す多様な語句」よりも、一般的で抽象性の高い語句である。</p>	<p>【解説】</p> <p>「慣用句」については、小学校3、4年の指導を基に、知識を一層広げて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して身に付けさせるよう指導する。</p> <p>「和語・漢語・外来語」の使い分けを考えさせることにより、微妙な言葉のニュアンスを知り、語感を磨くよう指導する。</p>
単語・文及び文章に関する事項	<p>(エ) <u>単語の類別</u>について理解し、<u>指示語</u>や<u>接続詞</u>及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。</p>	<p>(ウ) 文の中の<u>文の成分の順序</u>や<u>照応</u>、文の構成などについて考えること。</p> <p>(エ) 単語の活用について理解し、<u>助詞</u>や<u>助動詞</u>などの働きに注意すること。</p> <p>(オ) 相手や目的に応じて、<u>話や文章の形態</u>や<u>展開</u>に違いがあることを理解すること。</p>	
	<p>【解説】</p> <p>単語がその性質から自立語と付属語とに大別されること、さらに品詞に分類されること。それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどを指導する。</p> <p>指示語や接続詞の知識が、文章などを読むときに役立てられることを実感させる。</p>	<p>【解説】</p> <p>「文の成分」とは主語、述語、修飾語、独立語などのこと。「照応」とは、主語と述語の照応や修飾語と被修飾語の照応などのことをいう。</p> <p>助詞や助動詞については、文における付属語の働きについて指導する。</p> <p>話や文章は、だれに向けて、どのような目的で話すのか、書くのかということに応じて、それにふさわしい形態や展開があるということを理解させるようにする。</p>	

表現の技法に関する事項	(オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。		
	【解説】 「比喩」や「反復」などの名称と結び付けて、表現の技法の意味や用法を改めてまとめて指導する。		